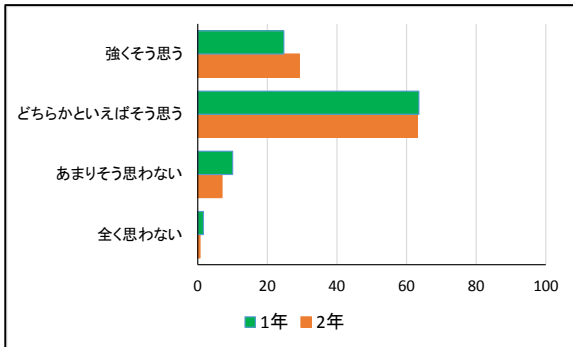
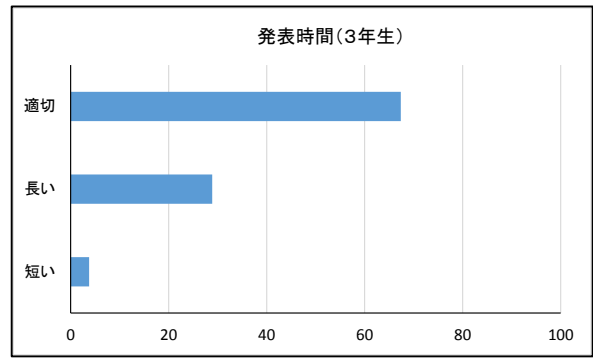
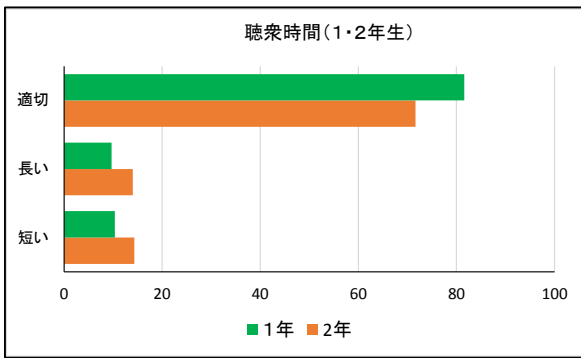


令和元年度 S S H研究成果発表会 アンケート結果集計

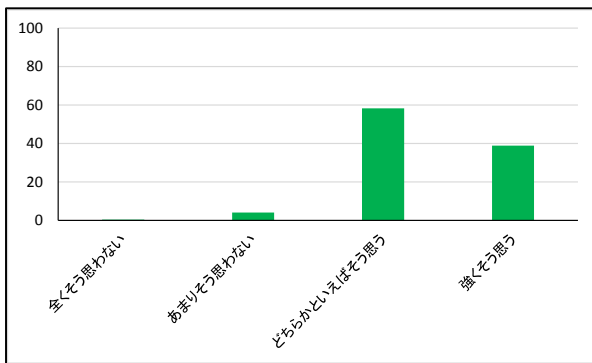
(1) 昇降口に掲示してあった「グラフィック・アブストラクト」は、ポスター発表の聴衆時に参考になったか。(1・2年生のみ)



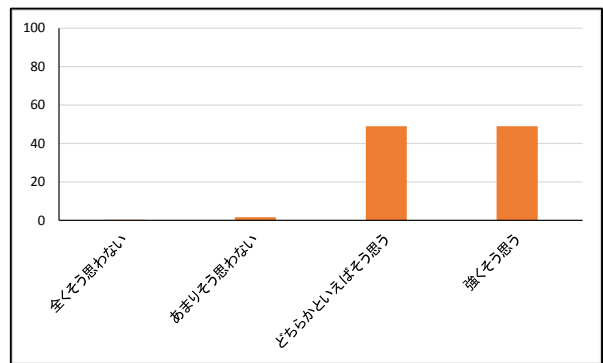
(2) ポスター発表の聴衆時間及び発表時間は適切だったか。



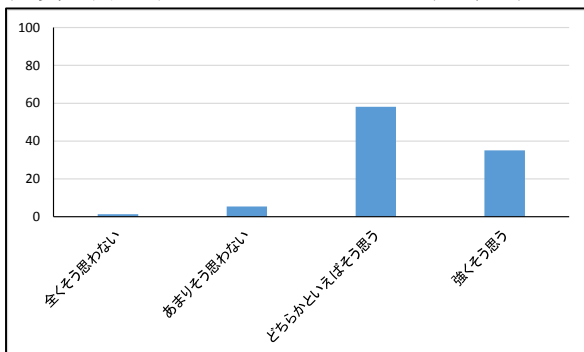
(3) 課題探究への意欲が湧いたか。(1年生)



(4) 課題探究への取組に参考となったか(2年生)



(5) 質の高い探究心は身に付いたか(3年生)



(6) 研究成果発表会に参加して、SSH 事業に対するあなたの気持ちや考え方の変化を具体的に記しなさい。

◎ 1 年生 (抜粋)

- SSH 事業に対し難しいものという印象をもっていましたが、今回のポスター発表を通して身近に感じる事ができました。単に理科的、数学的な内容に取り組むのではなく、探究心や発表の方法、実験手順についての深い知識を得られることが SSH の魅力だと気がついた。今取り組んでいる MC に対し、役立ちそうな発表の方法(資料を指し示す、見せたい所を大きく強調するなど)もあったので、それらを参考にしながら自分も良い発表をしたいと思った。
- SSH というと、生徒が調べたり探究心を高める活動を行うというイメージがありました。しかし、今回の研究発表会に参加して、探究心を高めるだけでなく、聞き手が理解できるように発表する説明力、プレゼンの構成を考える力が必要だと思いました。先輩方の発表は、プレゼンが見やすくなるように表やグラフが多く、文章もよくまとまって説明も整理されており、とても分かりやすかった。それらを参考にしながらこれからの自分の発表に活かしていきたい。
- ポスター発表では身近なものがテーマとなっているものが多く、どの発表も面白かったです。来年は自分たちがやるんだと思うと大変そうだと思うけれど、少し楽しみだなという気持ちにもなりました。今のうちから少しずつ疑問に感じたことを自分の中に貯めていきたいと思いました。口頭発表は難しいものばかりで知らない言葉だらけでしたが、SSH 部の方の研究に対するもっともという意欲がすごいなと思いました。これからの SSH 事業にも積極的に取り組んで行きたいです。
- 1つの課題に対してとことん突き詰めることで新たな発見や今後の展望など、自分の考えをもっと広げることができるのだと思いました。また、その研究を発表することがさらに先への成長に繋がると感じました。でも、その際に一般人に対してわかりやすく説明することはとても難しいと分かりました。ただ研究するのではなく、その成果を理解してもらいやすいように発表することも意識していきたいです。第三者が食いつくような研究や発表ができるようになりたいと思います。
- まず午前の部では、3年生の方々が様々なテーマを各自が持ち、自分なりに実験、検証をし結論を出しているのが難しそうだなと思った一方で、自分が気になることを深く自分で追究していけるというのは楽しめるし、自分の仮説と結果が違った場合や、新たな疑問が生まれた場合に、なぜなのかと追究できるのをとても大切にしていきたいと思いました。また、午後の部では様々な資料を用いてより正確性を持たせられるデータが作られていてすごいなと思いました。1年間をかけて実験を続けるというのはとてもやりがいを感じられ、私もそのような達成感を感じられるように頑張りたいと思いました。

◎ 2 年生 (抜粋)

- 今回の研究成果発表会に参加するにあたっては、どのような態度と視点を持って課題探究に取り組むべきかを学習することを目的にしっかりと話を聞いた。どの発表も図やグラフを効果的に取り入れており、熱心さと分かりやすさをとても感じた。私自身も、日々の生活において多くの疑問を抱えているが、前半の発表会で、疑問は調査しようと感じて、それを実行できた。今年も発表会に参加して、SSH 事業の「深い考察力、探究心を身に付ける」という目的に沿った課題探究と日々の生活ができるようにしようと思った。少しでも小さな疑問を見逃さないような洞察力を養う事も大切だと感じた。
- 今回、SSH 部などの発表を聞き、彼らが探究するものは身近なものであることがわかった。ただし、それと同時に、彼らはその身近なものを少し変わった側面から見ることによって、疑問を生み出し

ているのだと感じた。また多くの発表が、探究するものが解決すると新たに疑問が生まれてくるという連鎖になっており、探究には終わりが無いのだと知り、とても興味深いものと感じた。しかしながら、物事は多方面から見ないと解決せず、偏った側面からの研究は必ず欠陥を生み、そこから新たな疑問は生まれてこないのではないかと思う。また、「質の高い探究心」は、私は何度も探究を重ねることでもまれてくるものだと考える。

- 1年近くかけて研究を続けてきたというグループもあり、今後の課題探究に対してやる気をもらえた。また、英国研修の発表では、4か月かけて研究し、英語で現地の生徒に向けて発表したとおっしゃっていたので、これはSSH校である明和でしかなかなか経験できないと思うし、グローバルな人材を育成するためにもとても良い事業だなと改めて実感した。研究を進めていく中で、新たな疑問に出会い、その答えを模索していくこと。ここに研究の面白さがあるんだなと思った。自分も常に探究心を忘れずに行動できるようにしたいと強く思った。
- 今回の研究発表を聞いて、改めて深く探究することの価値、おもしろさ、実験・調査して考察することの大切さを実感することができた。学問の幅は広いので、授業や教科書の内容に満足せず、常にあらゆることに疑問を持ち、自分の知識・思考力を育てていくことが研究するにあたって大切なことだと思う。来年自分が研究発表することは楽しみでもあり、不安でもあるが、壁に当たっても粘り強く課題解決に取り組むことが研究の成功につながると思う。
- 最初のSSH事業報告により改めてSSHへ全員が研究結果や成果を共有することが大切であることを知った。また、自分も含め、まだまだ十分な研究や探究ができていないと感じて、もっといろいろなことに興味や疑問を持ち、それを解明してみせようという気持ちを持ってSSH事業に参加しようと思った。今日の発表を聞いて、SSHが学校にあることは本当にありがたいことで、自分の調べたいことや気になること、やりたいことの幅がとても広がっていると思うので、それを活かせるように探究に励もうと思った。

◎ 3年生（抜粋）

- 明和がSSHとしてやっている英国研修やSSH部の活動について詳しい内容を知ることができてよかった。特に英国研修では、参加することで、英語力だけでなくコミュニケーション力やプレゼンテーション力などさまざまな面で成長できることを知り、私も新しいことに挑戦してみることが必要だと思った。また、SSH部の発表からは相手に伝えるためには自分たちが研究を行う過程で考えたことを伝えることも必要だと感じた。ただ目的や方法を伝えるだけでは不十分であると思った。
- 1、2年生の頃に比べると、SSH部の専門的な活動の発表が格段に理解できるようになっていて、自分の科学知識が向上したことを、身をもって実感できうれしかった。同学年の友達の素晴らしい発表、また、ハキハキした喋りや、分かりやすい内容構成を見てとても良い刺激を受け、自分も人前でこのような発表ができるようになりたいと感じた。午前・午後を通して考える力がとても向上した良い一日でした。
- 1年生のときより、3年になった今、SSHを通して様々な研究を積極的に行っている人たちの話を理解することができ、その深さを感じることができた。SSH事業を最大限に私たち生徒が利用していくには、まず好奇心を持つこと、そして知識を得て、積極的に得た知識を発展させていくことが大事だと思う。ただ何も考えずに授業を受けたり、講演を聞くのでは、質の高い話であっても、それが何もなかったのと同じになってしまうと思う。意欲を持って臨めば、考える力や疑問を持ち探究する力がつき、自分のためになると思う。今、私は少し後悔の思いがある。
- 今日の発表を聞いて、1、2年生の頃より発表内容を理解できるようになり、興味を持って話を聞

くことができた。これは、2年間のSSH事業があったからこそだと思う。その中でも特に、2年生の課題探究の影響が大きいと思う。小さな疑問や関心から実験を行いその結果を踏まえて考え直し、研究を続けるのは、とても面白いことであり、探究を深めれば深めるほど自分の知らない世界を見つけ出すことができた。今日の発表会でも同じ高校生である仲間がどのようなことに着目し、どう考えたのか知る機会になり、すごく良かった。もっとSSH事業に参加すれば良かったと思っ
たし、今後もこのような場があってほしいと思った。

- ご講評をされた先生の話聞いて。研究発表に対する新たな観点を知ることができ、今回、私が課題探究で行った研究においての課題とも通じるものがあったように思いました。研究で自分たちだけ専門的な知識を得るのではなく、それを他人にどう分かりやすく説明するのかを考えることが真の理解へと繋がり、他の人に興味を持っていただける発表にすることがモチベーションの向上に繋がるのだと強く感じました。まだまだこういう研究をする機会はあると思うので、深い知識、プロセスを大切にしたいと思いました。